

やまのうち
山内ピッケル

1929

金研の職工、山内東一郎氏により作製された登山用ピッケル。かつて世界の登山家の中で名器として5本の指に数えられた。

展示品：酒井東海雄氏(東北大学山岳部OB)より寄贈。製造番号1865番(1952年)。



1920

本多光太郎博士のノート

金研初代所長 本多光太郎博士による直筆の講義ノート。

展示品：「鉄鋼学第1章緒論：研究の方法について」

1959

チタン樹枝状結晶

「気相還元法*」により製作された樹枝状の高純度チタン結晶。当時課題であった高純度チタンの量産化を目指して本技術の研究が進められた。工業化には至らなかったが、後世に残すべき功績として重要科学技術史資料(国立科学博物館)に登録された。

*気体にしたマグネシウムで四塩化チタンを還元し、純度の高いチタンを得る方法。



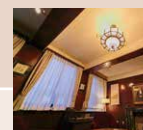
1916年に創立された
東北大学金属材料研究所
その100年の歴史を偲ぶ



「本多記念館」は1941年に落成した研究棟です。1994年に壁面の補強や内装などの改修整備工事を行いました。玄関ホールや階段周辺の大理石を保存するなどの配慮がなされ、当時の面影を今に残しています。2021年に登録有形文化財(建造物)に登録されました。当館2階にある「本多記念室」「資料展示室」には、本多光太郎博士を偲ぶ品々や、金属材料研究所が研究開発し、企業化されたKS磁石鋼をはじめとする、様々な新素材やその製品などが常時展示されています。

本多記念室

初代所長本多光太郎博士が生前に使用した実験ノートや様々な写真など、博士を偲ぶ遺品の数々が展示されています。



利用案内

▶見学可能時間

平日9:00～16:00

▶受入可能人数

10名程度まで

▶予約・見学方法等

案内をご希望の場合：見学希望日の10日程度前までに以下の問い合わせ先までご連絡ください。

案内が不要の場合：事前予約不要、随時見学可能です。本多記念館正面入口の窓口(総務課総務係)にお立ち寄りください。

▶所要時間

15分程度

▶お問い合わせ先

東北大学金属材料研究所 情報企画室広報班

E-mail: pro-adm.imr@grp.tohoku.ac.jp

T E L : 022-215-2144 F A X : 022-215-2482

2023年5月 第2版発行

■ 本多記念館 資料展示室 ■



Institute for Materials Research, Tohoku University

社会を支えた、世界を変えた、金研の材料科学

展示室には金研がこれまでに研究、開発に携わった50点以上の発明品や実験器具などを展示しています。基礎から応用にわたる金研100年の歴史的成果をご覧ください。

KS磁石鋼

日本で発明された当時最強の永久磁石。命名は研究費を寄付した住友吉左衛門に由来。



1916

センダスト

電子機器の変圧器(トランス)などに使用される磁心材料。スマートフォンの部品にも使用されている。「センダイ」で作られた「ダスト」が名前の由来。



1940

1932



コエリンバー

高精度なばね材料として、腕時計用のゼンマイに使用される合金。温度による伸び縮みが非常に小さいので正確に時間を刻める。

1973



アモルファス合金

オーディオヘッドや変圧器に使用される軟磁性材料。高強度、さびにくい性質が特徴。

炭化ケイ素(SiC)繊維

高い耐熱性、軽量、高強度のセラミックス繊維。飛行機の軽量化を目的に最新エンジンに導入され始めている注目の材料。



1976

研究成果

